

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3128641号
(U3128641)

(45) 発行日 平成19年1月18日(2007. 1. 18)

(24) 登録日 平成18年12月20日(2006. 12. 20)

(51) Int. Cl.

F I

AO 1 K 89/015 (2006. 01)

AO 1 K 89/015 C

AO 1 K 89/017 (2006. 01)

AO 1 K 89/017

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)	
(21) 出願番号 (22) 出願日	実願2006-8904 (U2006-8904) 平成18年11月1日 (2006. 11. 1)
(73) 実用新案権者	506367386 工藤 未博 大分県津久見市大字千怒 3 1 8 8 番地
(74) 代理人	100099508 弁理士 加藤 久
(74) 代理人	100116296 弁理士 堀田 幹生
(72) 考案者	工藤 未博 大分県津久見市大字千怒 3 1 8 8 番地

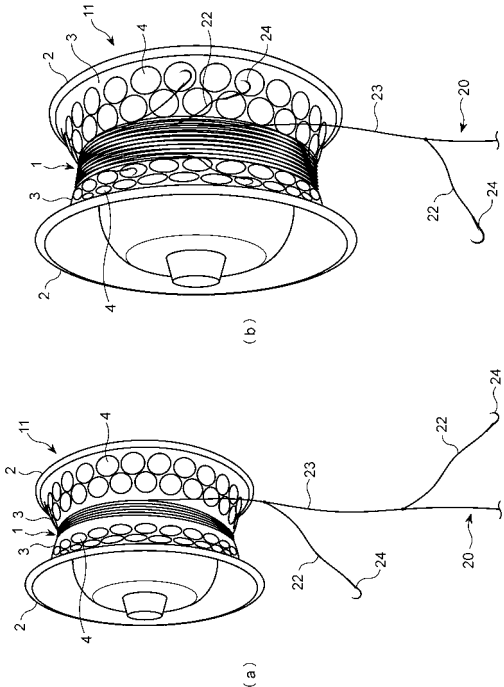
(54) 【考案の名称】 釣り糸巻取用ドラムおよび釣り糸巻取機

(57) 【要約】

【課題】 糸の途中に鉛の錘が取り付けられている釣り糸であっても、釣り糸がもつれることを防止して、作業者が鋭い針先で怪我をすることなく、効率良く巻き取ることが可能な釣り糸巻取用ドラムと釣り糸巻取機を提供する。

【解決手段】 釣り糸巻取用ドラム 1 1 は、中央部 1 がくびれた筒状の形状を有しており、外周端部 2 から中央部 1 に向かって傾斜面 3 を有している。傾斜面 3 の表面には磁石 4 が設けられている。釣り糸 2 0 を巻き取る際には、幹糸 2 3 が釣り糸巻取用ドラム 1 1 の中央部 1 を通るようにして巻き取る。釣り糸巻取用ドラム 1 1 が回転すると、枝糸 2 2 の先端に取り付けられた釣り針 2 4 が、傾斜面 3 の表面に設けられた磁石 4 に付着する。そのため、釣り針 2 4 が幹糸 2 3 に絡むことがなく、操作上便利であるとともに、作業者が釣り針 2 4 で怪我をすることがない。

【選択図】 図 2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

釣り糸を巻き取るために用いられる釣り糸巻取用ドラムにおいて、中央部がくびれた筒状の形状を有し、外周端部から前記中央部に向かって傾斜面を有し、前記傾斜面の表面には磁石が設けられていることを特徴とする釣り糸巻取用ドラム。

【請求項 2】

請求項 1 記載の釣り糸巻取用ドラムの回転軸に沿ってベルトが巻かれており、電動巻き取り部の動力が前記ベルトに伝達されて釣り糸巻取用ドラムが回転することを特徴とする釣り糸巻取機。

【考案の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本考案は、複数の仕掛けが取り付けられた釣り糸を巻き取る際に用いられる釣り糸巻取用ドラムと釣り糸巻取機に関する。

【背景技術】

【0002】

イカ釣り等を手釣りで行う際に、1本の幹糸に複数の擬餌針を繋ぎ先端に錘を設けた仕掛けが用いられている。イカ釣りにおいては、イカの群れが逃げないようにこの仕掛けを素早く海中へ投入する必要があるが、また、釣り糸を巻き取る際には、釣り糸がもつれないように手早く巻き取ることが必要である。このことはイカ釣りに限らず、魚釣りの場合も同様である。

20

【0003】

図 5 に、イカ釣りで手釣り用に通常用いられる釣り糸の構造を示す。釣り糸 20 は、擬餌針 21 が先端に取り付けられた複数の枝糸 22 が、幹糸 23 に連結された構造となっている。

【0004】

釣り糸 20 の巻き取りは手早く行うことが要求されるため、時間をかけて丁寧に釣り糸を揃えることができない。そのため、巻き取られた釣り糸 20 は乱雑になりやすく、擬餌針 21 が不規則に釣り糸 20 に引掛かった状態となりやすい。擬餌針 21 は鋭い針先を有しているため、釣り糸 20 がもつれると作業者は怪我をしやすく、操作性と安全性の点で問題があった。

30

釣り糸 20 を効率よく巻き取るために、リールに磁石を取り付けたものが、特許文献 1 に記載されている。

【0005】

【特許文献 1】特開 2000-270735 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

しかし、手釣り用の釣り糸は、比較的深い海中に生息する魚を採るために、100m ほどの長さのものが使用される場合があり、海中での潮流に流されないようにするために、釣り糸の途中に間隔を置いて鉛の錘が取り付けられていることがあり、このような釣り糸は、通常使用されているリールでは、錘が邪魔になってうまく巻き取ることができない。

40

【0007】

本考案は、このような問題点を解決するためになされたもので、糸の途中に鉛の錘が取り付けられている釣り糸であっても、釣り糸がもつれることを防止して、作業者が鋭い針先で怪我をすることなく、効率良く巻き取りと巻きおろしを行うことが可能な釣り糸巻取用ドラムと、この釣り糸巻取用ドラムを備えた釣り糸巻取機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

50

以上の課題を解決するために、本考案の釣り糸巻取用ドラムは、釣り糸を巻き取るために用いられる釣り糸巻取用ドラムにおいて、中央部がくびれた筒状の形状を有し、外周端部から前記中央部に向かって傾斜面を有し、前記傾斜面の表面には磁石が設けられていることを特徴とする。

【0009】

釣り糸を巻き取る際に、枝糸の先端に取り付けられた釣り針や擬餌針が、傾斜面の表面に設けられた磁石に付着するため、釣り針や擬餌針が幹糸に絡むことがなく、操作上便利であるとともに、作業者が釣り針や擬餌針で怪我をすることがない。

【0010】

また、本考案の釣り糸巻取用機は、上述した釣り糸巻取用ドラムの回転軸に沿ってベルトが巻かれており、電動巻き取り部の動力が前記ベルトに伝達されて釣り糸巻取用ドラムが回転することを特徴とする。 10

【0011】

釣り糸の巻き取りおよび巻きおろしは、電動巻き取り部を操作して、ベルトの回転方向を転換することにより簡便に行うことができる。また、電動巻き取り部に内在するモータのクラッチによって、釣り糸の巻き取り速度を適宜変更することができる。

【考案の効果】

【0012】

本考案によると、釣り糸がもつれることを防止して、作業者が鋭い針先で怪我をすることなく、効率良く巻き取りと巻きおろしを行うことが可能な釣り糸巻取用ドラムと、この 20
釣り糸巻取用ドラムを備えた釣り糸巻取機を実現することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0013】

以下に、本考案をその実施形態に基づいて説明する。

図1に、本考案の実施形態に係る釣り糸巻取用ドラムを備えた釣り糸巻き取り機の外観を示す。

【0014】

図1において、釣り糸巻き取り機10は、釣り糸巻取用ドラム11が支持部12によって船上に固定されて使用されるものである。釣り糸巻取用ドラム11は回転軸13を有しており、この回転軸13に沿ってベルト14が巻かれており、電動巻き取り部15の動力 30
がベルト14に伝達されることによって釣り糸巻取用ドラム11が回転する。

【0015】

図2に基づいて、釣り糸巻取用ドラム11によって釣り糸20が巻き取られる様子を説明する。

図2(a)に示すように、釣り糸巻取用ドラム11は、中央部1がくびれた筒状の形状を有しており、外周端部2から中央部1に向かって傾斜面3を有している。傾斜面3の表面には磁石4が設けられている。図2においては、丸型の磁石4を複数配置したものを示しているが、これに限定されるものではなく、磁石4は板状や棒状であってもよい。

【0016】

釣り糸20を巻き取る際には、幹糸23が釣り糸巻取用ドラム11の中央部1を通るよう 40
うにして巻き取る。漁業関係者が通常使用する釣り糸20は、枝糸22の長さが約40cmであり、幹糸23に枝糸22が取り付けられる間隔は10m程度である。

【0017】

図1に示すベルト14に電動巻き取り部15の動力が伝達されると、釣り糸巻取用ドラム11が回転し、図2(b)に示すように、枝糸22の先端に取り付けられた釣り針24が、傾斜面3の表面に設けられた磁石4に付着する。そのため、釣り針24が幹糸23に絡むことがなく、操作上便利であるとともに、作業者が釣り針24で怪我をすることがない。傾斜面3の寸法は、巻き取り時に釣り針24が磁石4に自然に付着する長さに設定することが好ましい。

【0018】

図 3 は、イカ釣り用に用いられる、擬餌針 2 1 が枝糸 2 2 の先端に取り付けられた釣り糸 2 0 を巻き取っている状況を示すものであり、原理は図 2 に示すものと同様である。擬餌針 2 1 の針先は金属によって形成されるため、擬餌針 2 1 は、傾斜面 3 の表面に設けられた磁石 4 に付着する。従って、擬餌針 2 1 が幹糸 2 3 に絡むことがなく、操作上便利であるとともに、作業者が擬餌針 2 1 の針先で怪我をすることがない。

【0019】

図 4 は、錘 2 5 が取り付けられた釣り糸 2 0 を巻き取っている状況を示すものである。ここでは、枝糸 2 2 は図示せず、幹糸 2 3 のみを図示している。錘 2 5 は幹糸 2 3 の途中に間隔を置いて配置されており、幹糸 2 3 は釣り糸巻取用ドラム 1 1 のくびれた中央部 1 で巻き取られるため、錘 2 5 があっても巻き取りに支障をきたすことがない。

10

【0020】

以上は、釣り糸 2 0 を巻き取る場合について説明したが、一旦巻き取られた釣り糸 2 0 は、図 1 に示す電動巻き取り部 1 5 を操作して、ベルト 1 4 の回転方向を逆にするにより、釣り糸 2 0 を簡便に巻きおろすこともできる。また、電動巻き取り部 1 5 に内在するモータのクラッチによって、釣り糸 2 0 の巻き取り速度を適宜変更することができるため、状況に応じた巻き取り速度の変更が可能である。

【産業上の利用可能性】

【0021】

本考案は、釣り糸がもつれることを防止して、作業者が鋭い針先で怪我をすることなく、効率良く巻き取りと巻きおろしを行うことが可能な釣り糸巻取用ドラムと、この釣り糸巻取用ドラムを備えた釣り糸巻取機として利用することができる。特に、竿を用いずに行う、手釣り用の巻き取り装置として有効である。

20

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図 1】本考案の実施形態に係る釣り糸巻取用ドラムを備えた釣り糸巻き取り機の外観を示す図である。

【図 2】釣り糸巻取用ドラムによって釣り糸が巻き取られる様子を説明するための図である。

【図 3】擬餌針が枝糸の先端に取り付けられた釣り糸を巻き取っている状況を示す図である。

30

【図 4】錘が取り付けられた釣り糸を巻き取っている状況を示す図である。

【図 5】イカ釣り用手釣り用に通常用いられる釣り糸の構造を示す図である。

【符号の説明】

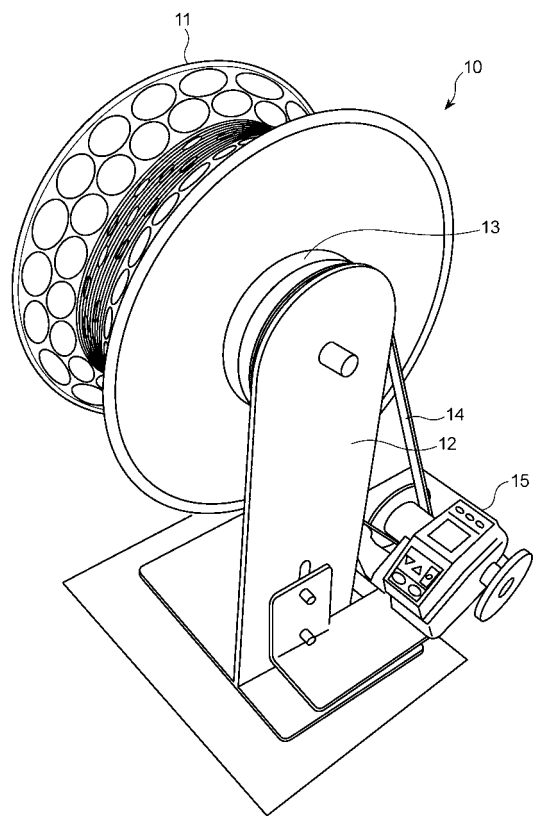
【0023】

- 1 中央部
- 2 外周端部
- 3 傾斜面
- 4 磁石
- 10 釣り糸巻き取り機
- 11 釣り糸巻取用ドラム
- 12 支持部
- 13 回転軸
- 14 ベルト
- 15 電動巻き取り部
- 20 釣り糸
- 21 擬餌針
- 22 枝糸
- 23 幹糸
- 24 釣り針
- 25 錘

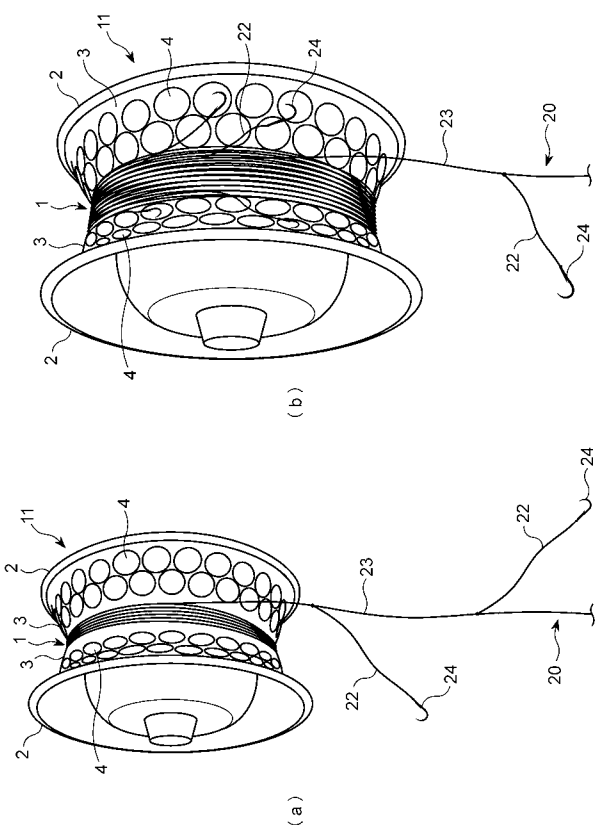
40

50

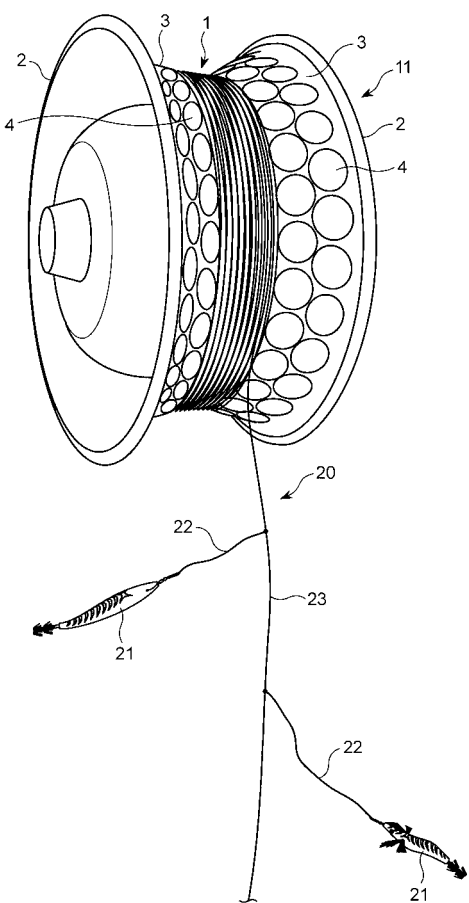
【図 1】



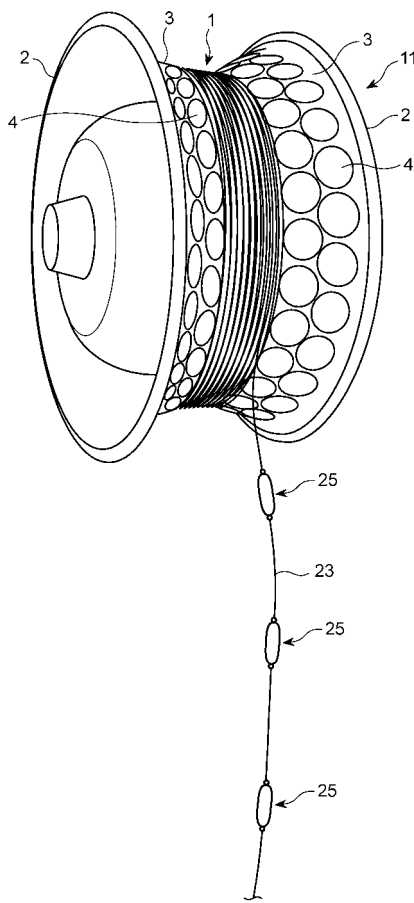
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

